蛾の翅面 homoeosis の一例

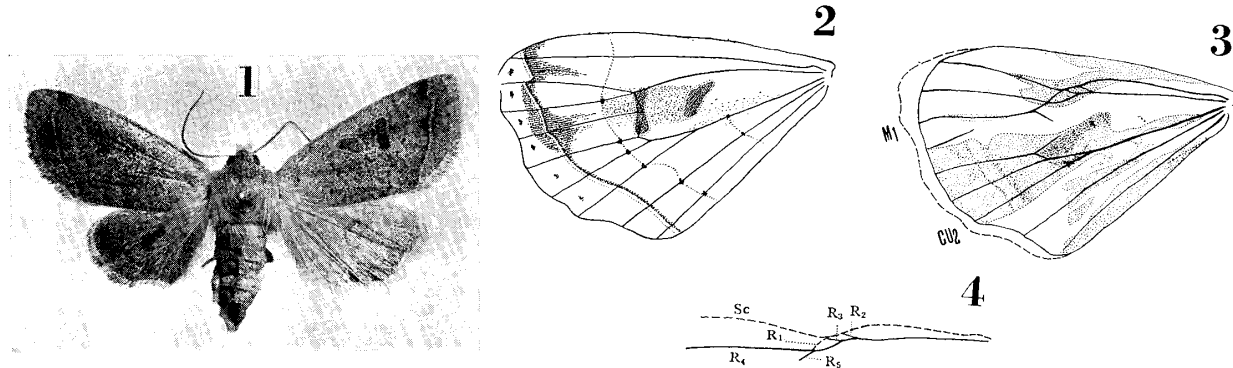
中村正直[1)]・岸田泰則[2)]

[1)] 東京都杉並区宮前3丁目14—12・[2)] 東京都世田ケ谷区北沢5丁目20—2

An example of the homoeotic aberration in Japanese moth

MASANAO NAKAMURA and YASUNORI KISHIDA

本誌12巻4号に故林慶氏（1961）が蝶の翅面にみられる homoeosis の興味ある数例を紹介され，その生因を考察されているが，文中蛾に関しては，後翅のかわりに前翅の生じた homoeosis の記録をあげられてはいるものの，翅面 homoeosis については何ら言及されていない．最近筆者の一人岸田は，ホソバキリガ *Orthosia angustipennis* Matsumura の左後翅にモザイク状の顕著な homoeosis の現われた個体を採集した．少なくともわが国ではこれまで，蛾に翅面 homoeosis の現われた例は知られていないと思われるので，次に記録しておきたい．

所検標本：1♀，群馬県谷川温泉，28 iv 1974（岸田泰則採集）．

第1図 左後翅に homoeosis を形成したホソバキリガ *Orthosia angustipennis* Matsumura, ♀ 異常型．

第2図 正常な左後翅の輪郭とその上に前翅の斑紋を対応する各室に配置して描いた模式図．

第3図 Homoeosis を現わした左後翅．翅脈と前翅斑紋を現わした部分のみを描いたもの．破線は正常翅の輪郭を示す．

第4図 異常翅の亜前縁脈と径脈の異常の生因を推定した模式図．破線が subcosta+R_1 幹，実線が radialsector 幹．

この個体は次の点で林の述べていることとやや相異している．

（1） 林は"前翅の斑紋が後翅に再現されるときは，その転移は広い面積にわたって連続的に起きる"と記しているが，本例では比較的広い面積に現われるものの，非連続となっている．

（2） 同じく"M_1 脈より後方，Cu_2 脈より前方の翅面では，前翅の斑紋もまたほとんどそのまま後翅へ再現される"が"M_1 脈より前方では前翅から後翅への斑紋の転移は全くない"し"Cu_2 脈より後方では，前翅の斑紋が多少ともゆがめられて後翅に再現され，あるいは部分的な欠除をみることもある"と述べている．ところがこの個体では，後翅の全面にわたって（M_1 脈の前方にも）前翅が再現されており，また M_1 脈と Cu_2 脈の間で前翅の斑紋がゆがめられて再現されている．

すなわち，本種は前翅の条斑の輪郭があまり明確でないので，推定するのに難かしい面もあるが，前翅に存在する各室外縁の点紋列，M_1 脈から 1A 脈までの脈上にある黒い点紋とこれらをつなぐ不明瞭な外横線，同様な内横線および環状紋は全く再現されず，亜外縁線の外側にそって走る黄褐条はやや巾広く，腎状紋はいちじるしく内傾している．その上腎状紋の上下端にそれぞれ1個づつみられる黒点は，おそらく M_1 脈と Cu_2 脈上にある外横線の黒点と考えられ，この場合外横線と腎状紋とが融合したものと推定される．

林が示した蝶の例では，いずれも翅脈に多少のゆがみはあっても，本質的な異常は認められないが，本例では後翅翅脈にいちじるしい異常が存在し，これが前翅斑紋の転移に影響を与えているものと考えられる．上記の外横線と腎状紋との融合および腎状紋の内傾は，異常的な後翅の短縮化および M_2 脈の異常，これにともなう中脈の切断と内傾とによって引き起されたものであろうし，また M_1 脈の前方にみられる前翅翅斑の再現は，後翅の径脈および亜前縁脈の異常に由来するものと推定される．この両脈は複雑にからみ合い，中室端近くに2つの小さな室を形成している（第3図）が，これを仮りに分解して第4図に示したように考えてみると，ほぼ前翅におけると同じ脈相となり，この部分に前翅斑紋の転位が生ずる可能性が考えられるのではなかろうか．後翅の第7脈はすでに蛹期において径分脈と考えられているので，この部分に各径脈気管の不完全癒合による残留分岐を考えることができるか問題はあるが，こうした現象の起因が林の考えているように発生のきわめて初期に存在するならば，あながち考えられないことでもないであろう．

Summary

The homoeotic aberration on the wing of a female of *Orthosia angustipennis* Matsumura (Noctuidae) is recorded. This example shows the forewing pattern mosaicly on the left hindwing and is also conspicuous in that this pattern is copied partly in the area between costal margin and vein M_1. Hayashi (1961) pointed out that the forewing pattern is not copied in this area of hindwing due to the differences in the veins of radius and subcosta between fore and hindwings. It seems that the vein aberrant of the hindwing (the coalescence of traceae of radius and subcosta is imperfect and the short branches may be the residual parts of the coalescent radii, see fig. 4) is the result of copying the forewing pattern on the costal area in this case.